

みっちゃん通信



2022年12月号

発行者：清水みちこ事務所

TEL：03-3981-1429

FAX：03-3590-4650

http://www.jcp-toshima.jp



子どもの入院時の食事代も 高校生まで無償の方向に！

みっちゃん通信11月号でもお伝えしましたが、清水みちこ議員が長年求めてきた「子どもの医療費・高校生までの無償化」が来年(2023年)4月から実現します。しかし子どもの入院時の食事代は、小学生以上は有料のままです。

清水議員は「入院時の食事は治療の一環」「子育て世帯が安心して医療にかかれるように」と、入院時の食事代も高校生まで無償化するよう繰り返し求めてきました。

11月24日、清水議員は第4回定例会の一般質問で改めて、入院時の食事代も高校生まで無償にするよう求めました。

区はこれに対して「助成対象の拡大に向けて取り組んでまいりたい」と答弁し、大きく前進しました。

区の試算では、小・中・高校生の入院時の食事代にかかる予算は、年間約346万円です。

清水議員は「時間はかかりましたが区が対象拡大を明らかにしたのは大きな前進です。」

これからもみなさんの声を区政にまっすぐに届けるためがんばります」と語りました。



高齢者の「難聴」と「補聴器」に支援を！ 区民からの陳情を審査

11月28日、区民厚生委員会が開かれ、清水みちこ議員は、区民から署名とともに提出された「豊島区の補聴器購入費助成制度の拡充を求める陳情(署名976名)」、「聴力検査を区民検診の項目に入れる陳情(署名890名)」を審査しました。

豊島区の補聴器購入費補助は、65歳以上の非課税の方に1台1回限り、限度額2万円までです。陳情は助成の条件、対象、助成金額など一層の拡充を求めています。

また聴力検査は、区の特定検診で対象が65歳の方のみであることから、陳情では65歳以上は毎年、聴力検査をと求めています。



清水議員は「豊島区の補聴器助成の予算は、わずか200万円だが、加齢性難聴は65歳以上は3人に1人の割合。早期発見

し補聴器を装着することで生活の質を保ち、社会生活を健やかに送ることができる。誰もが利用しやすい制度が必要だ」「港区では課税世帯も対象で補助は13万7千円、他にも5年毎の再申請、現物支給や調整などを行っている区もある」「聴力検査をはじめ、加齢性難聴を早期に発見できる選択肢の一つでも多く作るべき」と直ちに採択することを求めました。

しかし「補聴器購入費補助の拡大」の陳情は、自民党、公明党、都民ファースト・民主の主張で継続審査に。

「聴力検査」の陳情は、共産党以外は不採択でした。12月6日の最終本会議で議決される予定です。

区政報告会を開催しました (11/20)

はじめに米倉春奈都議から都議会での「物価高騰対策「痴漢対策」などについてお話がありました。

私からは、来年4月～実現の「子どもの医療費 高校生までの無償化」、実現を目指す高齢者の「補聴器購入費補助の拡充」、「給食費無償化」「給付型奨学金の創設」、連休中の「イケバス」のお話をしました。

参加者からは「イケバスは無駄遣い!」「私たちの生活を守って!」等の声があがりました。

引き続き皆さんの声をまっすぐ区政に届けます。

参加くださった皆さん、ありがとうございました!



おかげさまで目白図書館の集会室は大盛況でした。ありがとうございました。